

## ① 学校組織体制の改善に関すること

### 【小・中学校】

- 学年主任や教科主任等を中心に、経験の少ない職員が学級経営や生徒指導、学習指導等ができるように支援体制を整えた。
- 小中一貫で校種を超えた学び合いや教え合いの体制が確立してきた。
- 校務分掌と生徒会活動の委員会を連動させることにより、委員会活動が活性化し業務の効率化が図られた。
- 企画委員会で十分に検討した内容を職員会議で提案することで、会議の時間短縮ができた。
- 明るく風通しの良い職場の雰囲気をつくるために、全職員で気持ちのよいあいさつを交わしたことで、情報交換の一助になった。
- 生徒数に対して部活動数が多く、職員の負担が大きいことから、部活動の数を減らす試みを行った。本年度1部減を実施し、次年度5部減の可能性がある。

### 【県立学校】

- 職務に対して「持ちつ持たれつ」の雰囲気づくりを行った。
- 「相手の目を見てあいさつする」を3年間継続して取り組んでいる。同僚性の改善や生徒とのコミュニケーションの推進が図られ、外部からの評価も良好である。
- 渉外厚生部をつくり、PTA役員との連絡ルートを一本化した。
- 校務分掌、教科会の果たす責務を明確にすることで、それぞれの話合いの質を高め、目的を共有しながら協働の体制をより緊密なものにできた。
- 業務の「見える化」と「チームで動く」をテーマに、校内点検に全員で取り組んだことで、協力体制の構築と問題の共有化が図られた。